



Chapter 3 キャンパスライフ

キリスト教の大学ですので入学式から卒業式まで、またイースター礼拝やクリスマス点火式などキャンパスで行われるイベントがミッションスクールの雰囲気にあふれています。サークル活動も盛んで、全国的に活躍している部も多くあります。1学年約600名(2013年度)という規模ですので、学生と教職員、学生一人ひとりが大変フレンドリーで、うれしいことがあれば共に喜び、困ったことがあれば助け合うという気風にあふれたキャンパスです。埼玉県を中心に部大宮駅から一駅という交通の便に恵まれたところがありますが、キャンパスは緑にあふれ、四季の変化を豊かに感じることもできるのも特色です。

在学者数

学部学生数（2013年5月1日現在）

政治経済学部

学科名	政治経済学科			コミュニティ政策学科			総計
	定員	現員	内女子数	定員	現員	内女子数	
1年	100	101	12	80	70	17	171
2年	100	93	9	80	72	17	165
3年	100	107	19	100	95	23	202
4年	100	132	15	100	120	24	252
合計	400	433	55	380	357	81	790

人文学部

学科名	欧米文化学科			日本文化学科			総計
	定員	現員	内女子数	定員	現員	内女子数	
1年	80	50	24	80	88	29	138
2年	80	78	33	80	90	36	168
3年	100	82	47	100	90	34	172
4年	100	114	51	100	133	57	247
合計	380	324	155	380	401	156	725

人間福祉学部

学科名	児童学科			こども心理学科			人間福祉学科			総計
	定員	現員	内女子数	定員	現員	内女子数	定員	現員	内女子数	
1年	100	111	69	80	60	43	80	75	31	246
2年	100	107	65	80	67	28	80	80	38	254
3年	100	111	73	—	—	—	100	103	40	214
4年	100	115	67	—	—	—	100	109	44	224
合計	400	444	274	80	127	71	380	367	153	938

学生数総計

合計	2,453 (内女子数 945)
----	------------------

国籍別留学生数(2013年度)

※学部生のみ

国籍	男子	女子	合計
中国	93	106	199
韓国	10	7	17
台湾	4	1	5
ネパール	4	0	4
ベトナム	2	1	3
マレーシア	1	1	2
スリランカ	2	0	2
ミャンマー	0	2	2
イラン	0	1	1
タイ	1	0	1
ペナン	0	1	1
セネガル	0	1	1
合計	117	121	238

学科・学年別留学生数(2013年度)

※学部生のみ

学科名	政治経済	コミュニティ政策	欧米文化	日本文化	児童	こども心理	人間福祉	計
1年	17	16	5	4	0	5	2	49
2年	15	16	9	6	0	5	3	54
3年	21	19	12	9	0	0	10	71
4年	14	21	15	12	0	0	2	64
合計	67	72	41	31	0	10	17	238

学生の退学(除籍含む)状況について(学部)

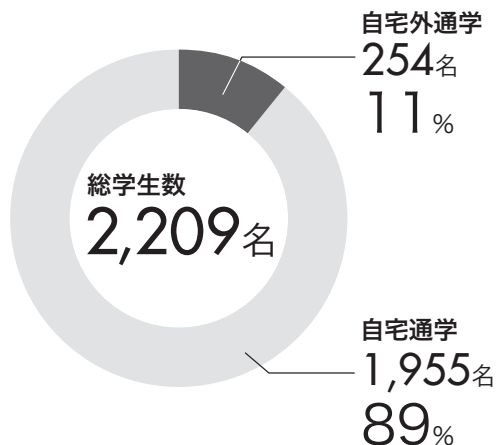
■4年間の退学(除籍含む)状況
2009年4月に入学した学生数 709人
そのうち2013年3月に卒業した学生数 482人
そのうち2013年3月までに退学(除籍を含む)した学生数 98人

■1年間の退学(除籍含む)状況
2012年4月に入学した学生数 606人
そのうち2013年3月までに退学(除籍を含む)した学生数 21人

通学状況

(2013年5月1日現在)

自宅・自宅外通学の割合



通学地域

都道府県	市町村	自宅通学	自宅外通学	合計
茨城県	古河市	18	0	18
	結城市	4	1	5
	猿島郡	4	0	4
	筑西市	3	0	3
	つくば市	2	0	2
	土浦市	2	0	2
	石岡市	0	1	1
	稲敷市	1	0	1
	牛久市	1	0	1
	笠間市	1	0	1
	取手市	1	0	1
	坂東市	1	0	1
小計		38	2	40
栃木県	宇都宮市	6	1	7
	小山市	4	0	4
	足利市	3	0	3
	下都賀郡	2	1	3
	佐野市	2	0	2
	下野市	2	0	2
	那須塩原市	2	0	2
	鹿沼市	1	0	1
	栃木市	1	0	1
	那須郡	1	0	1
	日光市	1	0	1
小計		25	2	27
群馬県	高崎市	8	1	9
	邑楽郡	8	0	8
	前橋市	8	0	8
	伊勢崎市	6	1	7
	太田市	5	0	5
	館林市	5	0	5
	渋川市	3	1	4
	佐波郡	3	0	3
	安中市	2	0	2
	桐生市	1	0	1
	藤岡市	1	0	1
小計		50	3	53
埼玉県	さいたま市北区	65	96	161
	上尾市	87	31	118
	川口市	80	3	83
	さいたま市西区	39	31	70
	川越市	46	12	58
	鴻巣市	53	4	57
	さいたま市見沼区	49	4	53
	越谷市	51	1	52

都道府県	市町村	自宅通学	自宅外通学	合計
東京都	熊谷市	46	1	47
	さいたま市浦和区	43	4	47
	さいたま市大宮区	36	10	46
	春日部市	43	2	45
	久喜市	36	2	38
	北本市	36	1	37
	深谷市	36	0	36
	桶川市	31	2	33
	さいたま市南区	28	4	32
	さいたま市緑区	31	0	31
	加須市	30	0	30
埼玉県	さいたま市中央区	28	2	30
	行田市	25	0	25
	さいたま市桜区	25	0	25
	草加市	24	0	24
	ふじみ野市	23	0	23
	比企郡	22	0	22
	所沢市	20	1	21
	東松山市	21	0	21
	さいたま市岩槻区	20	0	20
	狭山市	20	0	20
	蓮田市	18	2	20
埼玉県	朝霞市	18	1	19
	白岡市	18	0	18
	新座市	18	0	18
	坂戸市	17	0	17
	戸田市	17	0	17
	本庄市	14	1	15
	入間市	14	0	14
	富士見市	12	1	13
	志木市	12	0	12
	北葛飾郡	11	0	11
	吉川市	10	1	11
埼玉県	北足立郡	10	0	10
	鶴ヶ島市	9	1	10
	羽生市	10	0	10
	三郷市	9	0	9
	南埼玉郡	9	0	9
	児玉郡	8	0	8
	蕨市	7	1	8
	入間郡	6	0	6
	大里郡	6	0	6
	日高市	6	0	6
	八潮市	5	1	6
埼玉県	幸手市	5	0	5

自宅外通学者の出身県

都道府県名	人数	都道府県名	人数	都道府県名	人数
新潟県	38	北海道	6	岡山県	1
埼玉県	36	愛知県	4	鹿児島県	1
群馬県	24	岩手県	4	岐阜県	1
東京都	22	静岡県	4	島根県	1
福島県	19	青森県	3	徳島県	1
宮城県	19	秋田県	2	兵庫県	1
長野県	16	沖縄県	2	福岡県	1
山形県	15	熊本県	2	山口県	1
茨城県	13	富山県	2	山梨県	1
栃木県	10	長崎県	2	合計	271
神奈川県	8	広島県	2		
千葉県	8	大阪府	1		

都道府県	市町村	自宅通学	自宅外通学	合計
埼玉県	飯能市	5	0	5
	和光市	3	0	3
	秩父市	2	0	2
	秩父郡	1	0	1
	小計	1374	220	1594
千葉県	野田市	14	0	14
	柏市	11	0	11
	松戸市	6	1	7
	市川市	4	1	5
	我孫子市	2	1	3
	流山市	3	0	3
	船橋市	3	0	3
	浦安市	2	0	2
	八千代市	2	0	2
	山武市	1	0	1
	白井市	1	0	1
	千葉市	1	0	1
小計		50	3	53
東京都	北区	45	2	47
	板橋区	39	2	41
	足立区	36	3	39
	練馬区	33	0	33
	江戸川区	16	1	17
	杉並区	14	1	15
	豊島区	14	1	15
	荒川区	12	2	14
	大田区	12	1	13
	葛飾区	12	0	12
	江東区	11	1	12
東京都	世田谷区	11	0	11
	東村山市	9	2	11
	小平市	9	0	9
	中野区	6	3	9
	清瀬市	8	0	8
	品川区	8	0	8
	台東区	7	1	8
	文京区	7	0	7
	新宿区	5	1	6
	墨田区	6	0	6
	青梅市	5	0	5
東京都	西東京市	5	0	5
	東久留米市	5	0	5
	日野市	5	0	5
	港区	4	0	4
	目黒区	4	0	4

都道府県	市町村	自宅通学	自宅外通学	合計
東京都	昭島市	3	0	3
	国立市	3	0	3
	調布市	3	0	3
	八王子市	3	0	3
	福生市	3	0	3
	町田市	3	0	3
	あきる野市	2	0	2
	国分寺市	2	0	2
	渋谷区	2	0	2
	中央区	2	0	2
	東大和市	2	0	2
東京都	府中市	2	0	2
	三鷹市	2	0	2
	武蔵野市	2	0	2
	稲城市	0	1	1
	小金井市	1	0	1
	立川市	1	0	1
	千代田区	1	0	1
	西多摩郡	1	0	1
	羽村市	1	0	1
	小計	387	22	409
神奈川県	横浜市	16	0	16
	川崎市	13	1	14
	小田原市	1	0	1
	相模原市	0	1	1
	三浦市	1	0	1
	小計	31	2	33

※学生の本人住所と保護者住所の一致の状況から算出。但し、留学生を除く。

施設

施設・設備について

校地・校舎面積等	(㎡)	建物の用途別面積	(㎡)	食堂座席数	(座席数)
校舎・講堂・体育施設敷地	34,072	講義室・演習室	5,614	1号館学生ホール	394
屋外運動場敷地	26,241	実験室・実習室	1,449	4号館1階食堂	258
その他	2,405	研究室	3,239	エルビス館1階食堂	190
計	62,718	図書館	2,024	エルビス館2階インターネットカフェ	63
		管理関係・その他	12,195	エルビス館2階エルビスホール	68
		講堂(チャペル)	2,346	エルビス館2階特別食堂	20
		体育施設	1,561	計	993
		計	28,428		

ピアノ・オルガン台数	(台)
グランドピアノ	4
ピアノ	27
エレクトーンピアノ	6
電子ピアノ	23
オルガン	3
計	63

PC利用環境

場所	備え付けPC
1号館	デスクトップPC42台・ノートPC10台(ラーニングコモンズ)
2号館	ノートPC160台
4号館	デスクトップPC82台
キャリアサポートセンター	デスクトップPC2台
総合図書館	デスクトップPC40台・ノートPC20台
インターネットカフェ	デスクトップPC6台

図書館利用状況 (2013年3月31日現在)

蔵書冊数

年度	2012			2011	2010
分類	和書	洋書	小計		
合計	232,248	64,988	297,236	293,466	288,217
全国大学平均(2011年3月)					229,500
(平均は図書館年鑑2012より)					

館外貸出冊数

分類	全体(教職員・一般含む)			院生・学生・履修生のみ		
年度	2012	2011	2010	2012	2011	2010
合計	21,260	21,187	22,381	16,451	16,657	16,596
全国大学平均(2011年3月)				23,800		
(平均は図書館年鑑2012より)						

図書館では、日本文化学科の授業で2013年7月開催予定の、書評合戦「ビブリオバトル in ライフデザイン」に協力しています。これは、参加者が読んで面白かった本を順番に短時間で紹介しあい、ディスカッションをし、どの本が読みたくなったかを投票するものです。この授業を通じて、読書の機会を増やす、プレゼンテーション能力を培うアクティブ・ラーニングとなっています。

聖学院学術情報発信システムSERVE利用状況(2010～2012年度)

聖学院学術情報発信システム SERVE(Seigakuin Repository for academic archiVE)は、聖学院の研究および教育の成果を収集・蓄積・保存するとともに、Web上で世界に向けて情報を発信するシステムです。このような学術研究成果発信のシステムは「機関リポジトリ」といわれ、世界中で多くの大学や研究機関が構築、提供しています。SERVE もこの機関リポジトリの一つです。また、聖学院の電子的情報の散逸を防ぎ、情報の組織的保存(アーカイブ)を目指すものです。
<http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/>

ラーニングコモンズ

2013年4月より、聖学院大学1号館に「ラーニングコモンズ」がオープンしました。スタイルにあわせた学習空間を作り出すことが可能です。自主的学習、グループ学習など学生の皆さんは、ここに集ってディスカッションやミーティングをしたり、設置されている電子黒板やプロジェクタを使ってプレゼンの練習会などを行ったりと、自由な発想で学習発表・課外学習を深めていくことができます。本の貸し出し、DVD閲覧、パソコンの利用もOKです。
このような可能性を秘めた総合的学習スペースとして、ラーニングコモンズは「Teaching(教員が教えること)からLearning(学生が主体的に学ぶこと)へ」という大学教育の大きな流れを具現化し、支えていくことになります。

その他の資料

和雑誌	428
洋雑誌	120
スライド	34
マイクロ資料	18,825
カセットテープ	1,072
ビデオ・LD・DVD	3,025
CD	1,224
CD-ROM	738

入館者統計

年度	2012	2011 ^{※1}	2010 ^{※2}
開館日数	283	275	278
入館者数	143,664	143,428	145,628
^{※1} 震災のため制限付開館を行った日がありました。			
^{※2} 震災のため臨時閉館および入館者数のカウントを行わない日がありました。			

入館者数内訳

年度	2012	2011	2010
学生計	131,881	131,796	131,568
教職員計	7,484	7,999	9,344
一般	4,299	3,633	4,716

開館時間(参考)

曜日	月～金	土
授業開講期間中	8:45～21:30	8:45～17:00
その他期間	9:00～17:00	9:00～15:00
休館日 日曜・祝日、クリスマス、年末年始の定める日、入試日、蔵書点検期間(年1回)等		

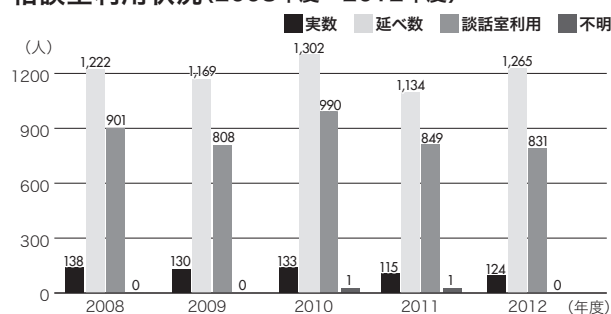
年度	2012	2011	2010
登録件数	512	788	437
閲覧件数	294,177	321,438	217,141
DL件数	30,798	119,347	85,061
[※] 閲覧件数とは、各紹介ページ(書誌)へアクセスした件数			
[※] DL件数とは、添付されている本文データを開いた件数			

学生相談室

学生相談室は、大学生活を送る中で悩みや問題が生じたり、自分についてもっと考えたいと思うときに、その解決のお手伝いをするところです。心理的な相談だけでなく、思いがけないトラブルに遭遇してしまったり、聞きたいことがあるけれども誰に聞いたらよいかわからない時など、学生が気軽に相談できる窓口となっています。臨床心理士によるカウンセリングの他、静かに過ごしたい、ゆっくり考え事がしたいという方のための談話室を運営し、学生相談室便りを年に数回発行して心の健康の啓蒙活動も行っています。

開室時間 月～金 10:30-17:30

相談室利用状況(2008年度～2012年度)



担当教員



室長 こども心理学科教授
山田 麻有美



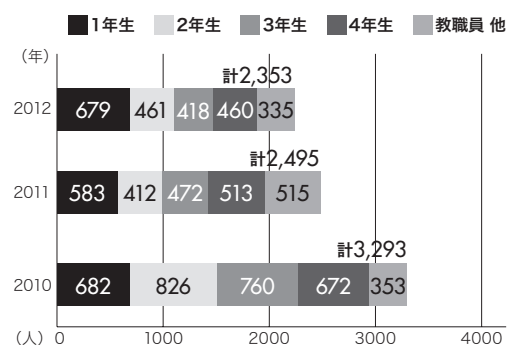
室長補佐 こども心理学科助教
竹淵 香織

保健室

保健室では、けがや病気の応急処置の他に、健康関連の図書の閲覧や、アルコールパッチテスト、肥満指導も実施しています。授業期間中、毎週水曜日13:30～14:30の間、学校医による診察や健康相談日も設けています。また、それ以外の日でも看護師による対症療法やアドバイス等も行っていきます。

開室時間 月～金 9:30-17:30 土 9:30-16:00

学年別来室者数



課外活動

クラブ・サークル一覧

分類名	団体名	所属人数
委員会・連合	学友会総務委員会	49
	学友会文化会連合	9
	学友会体育会連合	15
	学友会特別委員会連合	13
	ヴェリタス祭実行委員会	45
	卒業関連事業準備委員会	14
	演劇部	26
	軽音楽部サウンドスクエア	60
	茶道部 表千家	25
	写真部	16
文化会	法学研究会	20
	イラスト文芸部	58
	放送部	8
	アカペラ部～てくてく～	23
	東南アジアボランティア部Rung	11
文化同好会	児童文化研究会てふてふ	5
	③たるクラブ	5
	手話同好会	7
	猫文化同好会	7
	政治研究会「黎明会」	11
	国際交流同好会 まのと	15
	剣道部	4
	硬式庭球部	24
	サッカー部	22
	スキー部 ALPINA	7
体育会	軟式野球部	10
	男子バスケットボール部	13
	バドミントン部	30
	バレーボール部	7
	陸上競技部	39
	ソフトテニス同好会	15
	ソフトボール同好会 久米	7
	バスケットボール同好会 GRIP	30
	バレーボール同好会 We are NO.1	27
	硬式テニス同好会 パプルス	10
体育会同好会	ダンス同好会 CRUSH	23
	フットサル同好会	20
	ハンドボール同好会	10
	サッカー同好会 kacy's	22
	聖学院大学クリスチャンフェローシップ	26
特別委員会	聖学院大学フィルハーモニー管弦楽団	30
	聖学院大学聖歌隊	7
	聖学院大学ハンドベル・クワイア	7
	聖学院大学ボランティア・アソシエーション	45

2013年2月現在

在学中のアルバイト時間

学期中、アルバイトとして週何時間くらい働いていましたか。
(2012年度卒業生アンケート) 回答者数(425)、回収率82%

内容	回答数	割合
15時間以上	128名	34%
10時間以上15時間未満	69名	18%
5時間以上10時間未満	83名	22%
5時間以内	30名	8%
ほとんどしなかった	63名	17%

学費

学部 授業料等納入金(2013年度)

学科	学年	学期	入学金	授業料	教育 拡充費	施設費	後援会 入会金	後援会費	学友会費	学会費	卒業関連 事業費	同窓会費	学研災 ガウン代	合計	年間合計
政治経済 コミュニティ政策 欧米文化	1年次	春	280,000	355,000	30,000	120,000	50,000	24,000	10,000	—	—	—	6,300	875,300	1,350,300
		秋	—	355,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	475,000	
	2年次	春	—	365,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	—	—	—	529,000	1,014,000
		秋	—	365,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	485,000	
	3年次	春	—	375,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	—	—	—	539,000	1,034,000
		秋	—	375,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	495,000	
	4年次	春	—	385,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	24,000	20,000	—	593,000	1,098,000
		秋	—	385,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	505,000	
	合 計		280,000	2,960,000	60,000	960,000	50,000	96,000	40,000		24,000	20,000	6,300	4,496,300	4,496,300
日本文化	1年次	春	280,000	355,000	30,000	120,000	50,000	24,000	10,000	2,000	—	—	6,300	877,300	1,352,300
		秋	—	355,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	475,000	
	2年次	春	—	365,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	2,000	—	—	—	531,000	1,016,000
		秋	—	365,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	485,000	
	3年次	春	—	375,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	2,000	—	—	—	541,000	1,036,000
		秋	—	375,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	495,000	
	4年次	春	—	385,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	2,000	24,000	20,000	—	595,000	1,100,000
		秋	—	385,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	505,000	
	合 計		280,000	2,960,000	60,000	960,000	50,000	96,000	40,000	8,000	24,000	20,000	6,300	4,504,300	4,504,300
児童 こども心理 人間福祉	1年次	春	280,000	380,000	30,000	120,000	50,000	24,000	10,000	—	—	—	6,300	900,300	1,400,300
		秋	—	380,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	500,000	
	2年次	春	—	390,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	—	—	—	554,000	1,064,000
		秋	—	390,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	510,000	
	3年次	春	—	400,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	—	—	—	564,000	1,084,000
		秋	—	400,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	520,000	
	4年次	春	—	410,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	24,000	20,000	—	618,000	1,148,000
		秋	—	410,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	530,000	
	合 計		280,000	3,160,000	60,000	960,000	50,000	96,000	40,000	—	24,000	20,000	6,300	4,696,300	4,696,300

〔納入方法・その他の費用〕

本学の学費等の納入時期は、春学期と秋学期の年2回納入となっています。

教育拡充費は、新入生オリエンテーションおよび教育用コンピューター維持に係る費用です。

教職課程などを履修する場合は、別途実習費用が必要となります。また児童学科、人間福祉学科で実習科目を履修する場合も実習費用が別途必要となります。

本学では、P検定資格を取得する「情報リテラシー」講座(必修科目)があり、受講費用は15,000円です。大学で講座を受講受験する方法、学外で受講受験する方法等があります。また、履修免除もあります。

大学院 授業料等納入金(2013年度)

学年			学期	入学金	授業料	施設費	合計
博士後期課程	修士	1年	春	280,000	365,000	60,000	705,000
			秋	—	365,000	60,000	425,000
	2年	春	—	365,000	60,000	425,000	
		秋	—	365,000	60,000	425,000	
	3年	春	—	365,000	60,000	425,000	
		秋	—	365,000	60,000	425,000	

※修士課程は標準2年間、博士後期課程は標準3年間です。

※上記納入金のほか、入学時に保険料(修士課程、博士前期課程1,750円、博士後期課程2,600円)、後援会年会費5,000円を納入していただきます。

※学内進学者について修士課程・博士前期課程は入学金半額、博士後期課程は入学金全額を除きます。

※アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士前期課程シニアコースは、標準修業年限2年のところを3年、または4年まで延長することが可能です。この場合、原則として修業年限の延長に伴う新たな学費の負担はありません。

奨学金

ルーラ・ロング・コームズ記念奨学金

減免について:年間授業料の30%を学納金より減免。減免期間は1年間。

対象:全学生(日本人)。主として家計を支えている人の昨年1年間の所得金額が700万円未満。

1年生は春学期、2～4年生は前年度学業成績GPA2.5以上。

募集期間:1年生9月上旬～10月上旬、2～4年生3月下旬～4月上旬

2012年度:11名 **2011年度:**23名 **2010年度:**13名 ※2012年度以前はラーニングサポート制度として1年生のみ対象

聖学院大学進学・修学支援制度

現在進行中の金融危機の影響で経済的な理由から大学進学をあきらめざる得ない受験生を支援するために聖学院大学では2009年度一般入試で「緊急・経済支援特別入試」を実施いたしました。2013年度入学の受験生に対しても、自立修学を支援するものとして以下の通り支援計画を実施しました。2014年度入学の支援についても実施いたします。

2013年度入学時支援

A 学費月払い制度の適用

- ・申請書に基づく選考によって決定。
- ・申請者のうち高校在学中に「学生支援機構第一種」に予約、確定した者は、入学後支援機構から振り込まれる費用を月々自動振替によって学費にあてることとします。

B 入学金免除

- ・申請書に基づく選考によって決定。
- ・入試ごとの審査により計30名まで。

採用人数

年度	2013	2012	2011	2010
学費月払い制度の適用	22	27	12	21
入学金相当額給付	16	28	15	24

※2009年度緊急経済支援入試では、授業料の納入を最大4期分納。

聖学院大学災害被災者修学支援制度(東日本大震災被災者・修学支援制度)

東日本大震災にあたっても、このために大学進学の夢をあきらめなくてほしいと考え、特別入試制度と緊急経済支援措置を設けて、2011年度・2012年度入試D日程特別入試を実施しました(検定料は無料、詳細はP.19)。被災を受けられた方は被災の状況により、最大で入学金の免除と一年間の授業料の全額免除が受けられます。この緊急経済支援制度は、聖学院大学災害被災者修学支援制度になりました。2014年度でも同様の入学支援を行います。

1.対象地域

東日本大震災による災害援助法適用地域

2.対象者

- (1) 家計支持者が死亡、又は家計支持者の居住する家屋が全壊もしくは全焼した者
- (2) 家計支持者が居住する家屋が半壊もしくは半焼した者
- (3) 家計支持者が居住する家屋が床上浸水した者
- (4) 家計支持者が居住する家屋が床下浸水または一部損壊した者
- (5) 災害にともない経済的に困窮した者。ただし学生本人の父母又はこれに代って家計を支えている者(主たる家計支持者一人)の収入金額が、下記a、bのいずれかである者
 - a. 給与所得者 700万円未満
 - b. 給与所得者以外 350万円未満

※この項目でいう収入金額とは、「給与所得者」にあつては源泉徴収票の支払金額(税込)とし、「給与所得者以外」にあつては確定申告書等の所得金額(税込)とする。

3.支援措置内容

選考の上、下記の措置を決定いたします。

- 対象者(1)については、入学金および当該年度授業料(春学期・秋学期)の全額を免除する。
- 対象者(2)については、入学金および当該年度授業料(春学期・秋学期)の50%を免除する。
- 対象者(3)については、入学金および当該年度授業料(春学期・秋学期)の25%を免除する。
- 対象者(4)については、入学金を免除する。
- 対象者(5)については、入学金および当該年度授業料(春学期・秋学期)の50%を免除する。

4.採用人数

2013年度：新入生1名 2012年度：新入生2名 2011年度：18名
(在学生11名/新入生7名)

奨学金利用者数

聖学院大学独自奨学金給付・貸与者数

年度	2012	2011	2010	2009	2008
聖学院大学後援会 修学援助奨学金	0	2 春学期2(給付1) 秋学期0	5 春学期0 秋学期5(給付2)	5 春学期4(給付2) 秋学期1(給付1)	0
第2奨学金 (ニードスカラシップ) ※2013年度より廃止	4 春学期3 秋学期1	14 春学期7 秋学期7	26 春学期15 秋学期11	21 春学期11 秋学期10	25 春学期13 秋学期12

日本学生支援機構奨学金新規貸与者数

日本学生支援機構の奨学金は、学業に励む学生自身に貸与されるものです。したがって卒業後、学生自身が返還することになります。返還金は、後輩の奨学金として再び活用する仕組みになっています。

年度	2012	2011	2010	2009	2008
第一種奨学金	45	43	44	36	36
第二種免除	184	190	180	187	156

留学生授業料減免対象者数

※学部生のみ

年度	2012	2011	2010
単位規定(30%)	193	198	220
成績上位(30%)	46	70	88

外部奨学金給付者数

現在聖学院で取り扱っている奨学金は、上記奨学金以外にも都道府県・民間育英団体などからの各種奨学金があります。募集期間はほとんどが4～5月に集中しています。これらの奨学金は、給付・貸与の別、奨学金、採用人数、金額など条件が各々異なり、採用人員が少数です。

年度	2012	2011	2010	2009	2008
ツツミ奨学財団奨学金	0	1	1	0	0

その他の主な修学支援制度(奨学金/教育ローン/自立支援)

- ・聖学院大学 学費サポートプラン
- ・みずほ銀行提携教育ローン
- ・チャールズ・エリ阿斯・ガルス奨学金
- ・女子聖学院短期大学記念国際交流奨学金
- ・授業料月払い制度
- ・キャンパス自立支援制度[生活サポート基金]

在学者数

通学状況

施設

学生相談室
課外活動

学費

奨学金

ボランティア活動

聖学院大学では、東日本大震災の被災地の復興支援をきっかけに、2011年5月、復興支援ボランティアセンターが設置。2012年度には、ボランティア活動全体を支援するボランティア活動支援センターが設置され、復興支援だけでなく、地域支援活動にも広がりが出てきています。

1. 東日本大震災復興支援活動

(1) 岩手県野田村・田野畑村への児童訪問ボランティア(2012年度)

聖学院大学の学生(主にこども心理学科生)が、東日本大震災被災地の児童保育施設を訪問し、子どもたちの傍らに寄り添い、子どもたちの表情や言葉から心情をくみ取りながら、子どもたちに接することを体験するサービスマーケティングを用いた体験学習プログラム。

回数	場所	日程	参加人数
1	岩手県野田村・田野畑村訪問	2012年2月23日～26日	3
2	玉川保育所(野田村)、田野畑村立若桐保育園、たのはた児童館	4月18日～21日	8
3	玉川保育所(野田村)、田野畑村立若桐保育園、たのはた児童館	5月16日～19日	5
4	日向保育所(野田村)、田野畑村立若桐保育園、たのはた児童館	10月17日～20日	8
5	野田保育所(野田村)、田野畑村立たのはた児童館、若桐保育園	11月14日～17日	6
6	野田保育所(野田村)、田野畑村立若桐保育園、たのはた児童館	12月12日～15日	9
7	田野畑村立若桐保育園、たのはた児童館	2013年2月7日～9日	5

(2) 被災者親子への支援活動(2012年度)

こども心理学科・金谷京子、児童学科・坂本佳代子(共に教員)及び臨床発達心理士会により、以下のような支援を継続。
・加須・所沢に避難している親子への支援 ・いわき市仮設での遊び広場開催 ・南相馬の専門職研修・保護者心理相談

(3) 岩手県釜石市鶴住居地区プロジェクト(2012年4月～2013年4月)

2011年2月から始まった、釜石市鶴住居地区を対象とした、プロジェクト。
冬の「サンタ・プロジェクト」、春の「桜プロジェクト」を中心に、活動を展開している。サービスマーケティングの形式を取り入れている。

日程	内容・場所	参加人数
4月20日～22日	さいたま市盆栽町「清春園」協力により鉢植えミニ桜約300鉢を地域の希望者への贈呈配布する「桜プロジェクト」を実施	釜石市鶴住居地区 学生22名 教職員5名
5月18日～20日	あそびのひろば&お掃除ボラ」実施	鶴住居地区仮設商店街・根浜地区近隣 学生8名、一般3名、教職員5名
5月21・24・25日	「グリーンプロジェクト」募金活動(総額43,858円)	盆栽町での盆栽祭り・学内 学生26名
5月26日	学生復興アイデアコンテスト本選において「グリーンプロジェクト」に関するプレゼンテーションを実施	東北大学 学生6名
6月13日	AH企画、三陸ひとつなぎ自然学校代表の伊藤氏と柏崎両氏による講演会を実施(聖学院大学)	「どんぐり・うみねこ村復興支援事業～地域資源を活かす復興ツーリズムから子どもの支援まで～」 L・D・W 学生100名以上
7月22日	女性コーラスグループ「グリーン」のコンサート時に復興支援ボランティアチーム学生が「グリーンプロジェクト」のための募金活動を実施	所沢市中央公民館／募金額：来場者から115,950円、出演者から15,000円 ボランティアチーム 学生2名
8月6日～9日	ボランティアスタディツアー「こども夏まつり&お掃除ボラ」実施	鶴住居地区仮設商店街・根浜地区近隣 学生28名、教職員10名、一般2名
8月30日～9月19日	三陸ひとつなぎ自然学校の活動への参加(放課後子ども教室、農作業、菜の花プロジェクト等)	鶴住居地区等 学生1名
9月5日～10日	現地ボランティア団体「いわて銀河ネット」の活動への参加(仮設住宅の「お茶っこサロン」での交流等)	鶴住居地区等 学生1名
9月17日～19日	釜石の塩作り(大学祭での復興支援「塩むすび」販売用)及び三陸ひとつなぎ自然学校の「放課後子ども教室」参加	鶴住居地区等 学生5名
9月24日～10月4日	三陸ひとつなぎ自然学校の活動への参加(放課後子ども教室、農作業、菜の花プロジェクト等)	鶴住居地区等 学生1名
11月30日～12月2日	ボランティアスタディツアー「サンタプロジェクトII」	鶴住居地区等 学生・教職員25名程度
4月19日～21日	桜プロジェクト2(岩手県釜石市鶴住居地区の方々へ盆栽桜をお届けする)	鶴住居地区等 学生・教職員40名

※その他、ヴェリタス祭、クリスマスツリー点灯祭で、被災地の物品販売を行いました。

(4) 埼玉学生ボランティアネットワーク「わかたま」の活動

埼玉県内の大学生が中心となって、震災復興支援として、何かできることはないかと共同で進めているプロジェクト。

日程	内容・場所	参加人数
11月24日	埼玉学生ボランティアネットワーク「わかたま」主催シンポジウム「つながれミライ-From 3.11 今私たちにできること-」	本学開催 運営側3名 前日・当日スタッフ5名 参加6名(42名[11大学参加])
1月11日	「わかたま」プレ募金活動：駅頭でのボランティアのための募金活動	本学 学生4名
2月11日	「わかたま」合同イベント被災地支援の募金活動と新聞「From3.11 今私たちにできること!」の配布	大宮駅・川越駅・熊谷駅・新越谷駅 学生18名(65名[12大学参加])

2. 地域連携活動

2013年4月、地域連携・教育センターが開設し、さいたま市、上尾市、埼玉県を中心に地域連携活動を積極的に展開することになりました。また、復興支援活動から岩手県釜石市との連携や、産業界との連携も予定されています。

日程	内容・場所	参加人数
2012年10月14日	さいたま北商工協同組合主催「さいたまKI-TAまつり 2012」に参加 福祉ブースの運営(車椅子体験・手話クイズ)や被災地各地の物品販売の実施	宮原駅西口 ロータリー 学生11名
11月2・3日	ボランティア祭サポート。地域のボランティア受け入れ団体にとっては、大学で直接多くの学生と出会う場として、また聖学院大学の学生にとってはボランティアの初めの一步を踏み出せる場として開催。	ヴェリタス祭内 ボランティア祭実行委員11名 参加団体8団体
12月13日	宮原青年クラブ主催みやはらホッとイルミネーションIN 北区参加(点灯式参加および子どもたちへのお菓子プレゼント)	宮原東口公園 学生7名
3月29日	さいたま市との聖学院大学との連携に関する包括協定締結	
4月30日	上尾市「情報・脈わい発信ステーション あびっ!」の開所記念式典への協力	上尾駅 学生・教職員 25名

3. 学生スタッフ(仮称)養成講座

学生と共につくる、育つセンターを目指し、「ボランティア活動を応援するボランティア」である学生コーディネーター養成を目的とした講座を実施しました。
(6月～7月 全5回、受講者14名)

「夏のボランティア体験プログラム」紹介キャンペーン

一人でも多くの学生にボランティアの機会をつくるのと同時に、プログラムの周知を通じて、「ボランティアは誰でも関わることでできる身近なもの」という雰囲気を大学内に育みました。